



DATE >> 2017/06/04
 VENUE >> 三重・鈴鹿ツインサーキット
 PHOTO >> RYOTA-RAW SHIMIZU (清水良太郎 / Fox Book Studio)
 REPORT >> SHINYA KUSHIURA (串浦慎哉)
 CALL >> Garage EVE.RYN (ガレージエブリン) [0723] 39-1760, [03] 3707-3800 www.everyn.com

会場を華やかに彩るエブリンディーハが愛車とのツーショット撮影や同乗走行などで、その魅力を全開！ イベントを一層盛り上げる。



EVE.RYN MEETING 2017

いに3ケタを突破した -ジーコンプリート感謝祭!

5回目となった「エブリンミーティングオフ会」が快晴の6月4日、三重県の鈴鹿ツインサーキット開催された。行イベントはガレージエブリンのコンプリであるエナジーコンプリートを所有するオーナーによるオフ会からスタートして、回を重ねるご規模を拡大。もちろん特別仕様のオリジナルカーを所有するオーナーたちで構成する「エナジー」の会員も拡大しており、BMWの新しい方を実践している。エブリンは、唯一無二の卓越したデザインでBMWの持つスポーツ性をより高め、ワイルドながら決して高級感を損なうことのないコンプリート製作で支持されている注目のジャパニナーだ。一様からは同じコンプリートカーを持つ者同会的イベントにしてもらいたいですし、我々からは、日ごろのご愛顧に応える感謝祭的いで開催させていただいております」と青木正

幸代表。そんなことからエナジーコンプリートのオーナーなら、サーキットまでの交通費を除き、サーキット走行を含むイベント参加費は無料というサポート態勢を整えている。さらに総額数十万円もの豪華景品が用意されたビンゴ大会も無料というからオドロキと言われない。昨年80台の参加車両だったが、今年はついに100台の大会を突破！ 迫力のコンプリートカーたちが会場にざらりと並ぶ姿はもちろん、サーキットを疾走する姿もまさに圧巻。なお、これまで恒例で行ってきた新作コンプリートカーの発表は、カーショーで事前に発表していたことから、その第1号車オーナー・永田拓也さんへの納車式へと変更。参加者を楽しませることはもちろん、オーナーへのサプライズなど楽しい企画満載のイベントとなっていた。愛車フォトコンテストやビンゴ大会などとともに、ガレージエブリン1社の限定イベントとしては、異例とも言える盛り上がりを見せていた。



努めたのは、青木 雄世田谷店長とエブリンディーハがスタッフで会場をわかせた。



新作コンプリートに乗り換えるユーザーの名前を、スタッフがわざと間違えるというサプライズ演出も盛り込まれた納車式も開催。



総額数十万円もの豪華景品が用意されたビンゴ大会。このビンゴ大会への参加も、エナジーコンプリートのオーナーなら無料というのガスゴイ!



ビンゴの景品には、なんと罰ゲームも用意!! 今年はずっとのシュークリームの中から、わざわざ入りを入れた人が大当たり。



一番の目玉商品、デザイン・ホット&クールを引き当てたのは、神奈川県から初参加の宮永さん。「でかした!」と奥様も大喜び。



事前に投稿された写真で行われたフォトコンテスト。準備に2時間以上費やしたという超大作に加え、構図や色使いなどプロ顔負けの作品ばかり。



オフ会の約1週間前に納車されたばかりのエVO 06.1で参加した、大阪府の藤岡芳徳さん。ベースは650iグランクーペでDMEチューンにより550ps以上のパワーアップを実現。さらに購入時にはまだ高校生の息子さんの意見をしっかりと取り入れ、エナジーインディビジュアルタイプ4の21インチへの変更と、カーボン製キットをチョイス。こだわりと家族愛の詰まった1台なのだ。



サイドデカールやM3用グリルのカラーリングが、インパクトを放つ小林陸憲さんのEVO 93.1。ベースはE93の335iでボディキットからインテリアまで、カーボンパーツを積極的に取り入れてレーシーなムードを演出。オープンエアモデルながら、エナジーコンプリートの広報活動? のため毎日通勤に使っているそう。



仲の良さが存分に伝わってくる、奈良県からEVO 10.2で参加の柳田昌孝・美山さんご夫婦。ベースはF10の528i「元々、サーキットを走るようなクルマじゃないけど…バイクも乗っているのでライン取りで戸惑うこともなく、こう楽しかった」とサーキットランの楽しさを感じていた。Mベースのコンプリートカーが多いなか、中間の順位とかかわりの好タイムをマーク。



初エナジーコンプリートとなるEVO 64。こちらも初めてとなるサーキット走行を体験したオーナーの秋山賢太郎さん。憧れていた6シリーズを探していた時、エナジーコンプリートの存在を知り、その姿にひと目惚れしてしまったという。E64の650iをベースにDMEチューンされたこのマシンを、オープンにして走るサーキットは最高に気持ちよかったという。



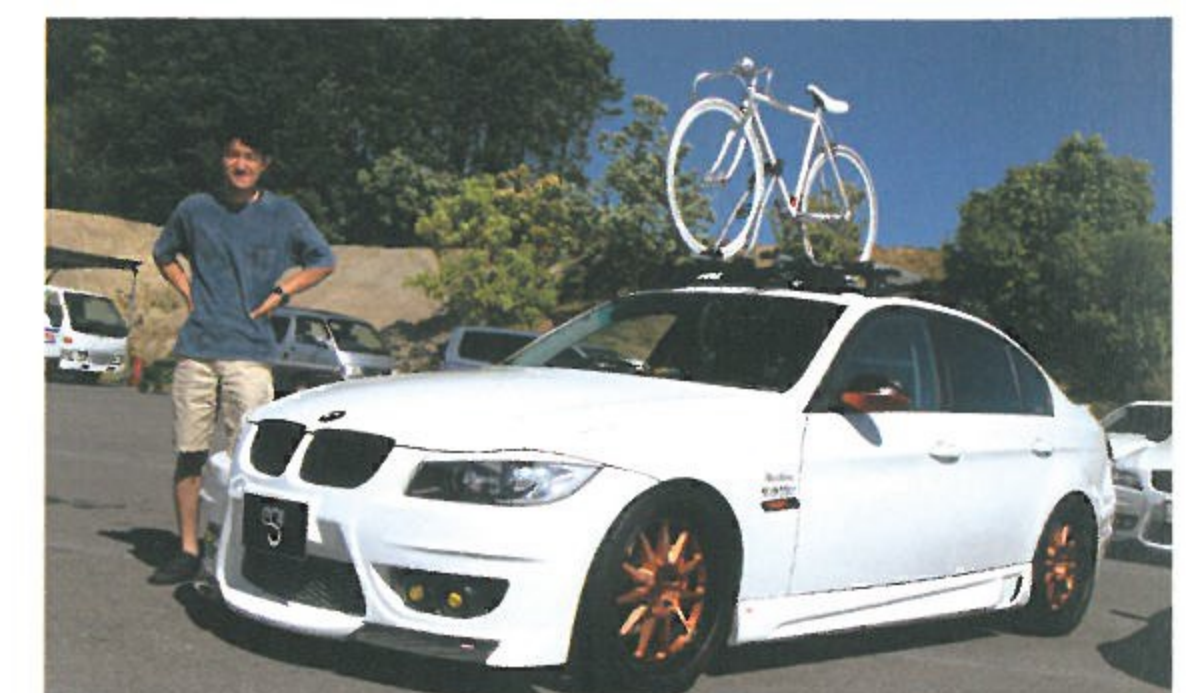
発表されたばかりのエナジーコンプリート最新モデル、EVO 13.1の納車第一号となった永田拓也さん。以前もエナジーコンプリートの6シリーズに乗っていて、このクルマが2台目。カーボン製のボディキットやゴールドのホイールなど、高級感たっぷりなモディファイのなかでも、フロントマスクが特にお気に入り。



奥様の千賀子さん、愛犬のエルちゃんも参加した濱本秀貴さん。ラグジュアリーな760iをベースにガレージエブリンのEVO 02.1パーツでモディファイしてスポーツ性をプラスした高速走行仕様。もちろん快適な乗り心地は確保しながらも、BMWならではの走りのDNAは健在。気持ちのいいサーキット走行が味わえたという。



購入時にランボも検討したという、勤田光章さん。しかしエキゾチックよりリアルスポーツでありながら美しい曲線を描くボディラインとボリューム感あふれるフォルムが気に入って、エブリンコンプリートEVO i8にしたという。ノーマルのi8は迫力不足に思えるという勤田さんは、EVO i8のスタイリングに大満足という。このスーパーi8がサーキットを走る姿は、超絶カッコよすぎ!!



遊び心のあるコンプリート仕様を目指し、オイル、グリル、フォグランプの塗装をDIYで行っている。E90の323iがベースだが、EVO90.1のパーツで現代的な仕様にモディファイ。インテリアも見どころ満載で、パネルを大理石風風にアレンジと、オリジナルな設定に。ルーフに積載されたロードバイクは、ドライブ先での移動に大活躍する必需品という。